

プール学院報

Poole Gakuin
150th
 FOUNDED 1879
 愛と奉仕

第**95**号

2024年2月・3月
 発行

学校法人 プール学院
 〒544-0033
 大阪市生野区勝山北1-19-31
 TEL.06-6741-7005
 FAX.06-6731-2431



SPRING



SUMMER



AUTUMN



WINTER



CONTENTS

理事長挨拶 1

[中学校・高等学校]

校長メッセージ 2・3

進路実績 4

クラブ等の成果 4

主な行事 5

生徒自治会だより 5

部活動だより 5

「アカデミア」の取り組み 6

データサイエンスの取り組み 6

Glocal StudyIの取り組み 6

中学総合学習の取り組み 7

LRC(図書館)新コーナー 7

留学報告 8・9

PTA活動のご報告 8

中・高後援会のご報告 9

同窓会だより 10

プール幼稚園だより 11

法人だより 12

編集後記 12

ご挨拶

まことの光があった。その光は世に来て、
 すべての人を照らすのである。

(ヨハネによる福音書1:9 聖書協会共同訳)

理事長 磯 晴久 (日本聖公会大阪教区主教)



プール学院に連なる皆様、いつもお祈りと
 お支えを賜り感謝申し上げます。

10数年前、私は大学生たちと、インド・コル
 カタのマザー・テレサが始められた「死を待つ
 人の家」を幾度か訪れたことがありました。貴
 重な体験を致しました。と共に、現地で出会
 った人々の中に、ヒンディー語を学んでいる方
 がいたのですが、その人から、次のようなお
 話を伺いました。ヒンディー語を学んでいて最
 初につまずくのが、「与格」という文法の構造
 だと言うのです。感情表現などが典型的で、
 「私は悲しい」という時、主語を「私」にせず、
 「私に悲しみがやってきて、とどまっている」と
 いう言い方をするとこの世に「すなわち「私たちの

私が主体で「何か」を捉えるのではなく、私
 に向かってやってくる「何か」があるという考え
 方なのです。面白いと思い、心に残りました。実
 は、聖書にもそれに近い表現が出て参ります。

上記の聖句は、クリスマスによく読まれる箇
 所です。「まことの光」とは主イエスのことす
 が、主イエスは「この世に」すなわち「私たちの

ところにやって来て、私たちのうちにとどまり、
 私たちを照らしてください」というのです。

私たちプール学院も、優れた女性の宣教師
 の方々を通して、主イエスの光がやって来て、
 この光を心とする学校が誕生しました。そして
 この光は、いろいろな形をとって、私たちの内に
 とどまり、今も照らし続けてくれています。

2024年は、プール学院に最初の光が灯され
 て、145年目の年です。学院としては、創立145
 年を、150周年に向けてのキックオフの年と位
 置付け、記念事業の計画をしております。生徒
 と共に喜び祝い未来を展望する記念礼拝、逆
 風の時代をどう乗り越えていくかを学び、考える
 ことを目的とした教職員研修会、そして記念クリ
 スマス礼拝とお祝いの会などを検討していま
 す。お祝いの会では、創立150周年記念事業
 計画を発表できればと考えております。皆様の
 積極的なご参画を、よろしくお願い致します。

145年前にやってきて、私たちの内にとどまり、
 私たちを照らし続けている「主イエスの光」を、
 皆様とご一緒に見つめたいと願っております。

プール学院創立145周年を 迎えるにあたって

校長 安福 朗



はじめに

2024年プール学院は創立145周年を迎えます。

2024年6月1日には、創立145周年記念礼拝を執り行い、アングリカンコミュニオンにおいて東アジアで初めて女性の主教となられた北海道教区主教笹森 田鶴師を説教者にお招きして、生徒とともに喜び祝い、未来を展望する場とすることを予定しております。

また、2024年を、2029年に迎える創立150周年に向けてのキックオフの年としたいと考えております。2029年はまだ先のような気もしますが、次年度4月に入学する新中学1年生が高校3年生になる年であることを思えば、それほど遠い未来のことではなく、今から準備を始めなければなりません。

記念式典や記念事業の検討を進めるとともに、150年の歩みを土台として、これからの50年を展望した構想を、生徒、保護者はもとより、同窓会、後援会をはじめ、プール学院につながるすべての人と共に祈り、共に学び、共に考えながら練り上げていけたらと願っています。

プール学院の復権をめざして

私がプール学院に校長として招かれた2021年は、プール学院大学の学校法人桃山学院への設置者変更とプール学院短期大学の閉学が完了し、中学校高等学校のみを有する学校法人（前期・後期の中等教育に責任を持つ学校教育機関）として新たな歩みをはじめた年でした。

「今の時代に、あえて女子教育を問う覚悟を持ってプール学院の復権を果たす」という目標のもと歩んできたこの3年、まだまだ復権には至りませんが、生徒数は140人以上増え、中高生合わせて860人が学ぶ多くの方に選んでいただける学校として着実な歩みを進めつつあります。

145周年を迎えるにあたって、あらためて「プール学院の特色と目指す人間像」を私なりにまとめさせていただきました。

「自画自賛」ではありますが、「自画自賛。結構じゃないか。自賛できないような絵は描くな。」と恩師から教えられたことを縁に、プール学院につながるすべての方々へのエールとしてお届けしたいと思います。

プール学院の教育の特色

1879年の創立以来、プール学院は美しい学舎に集う生徒のすべてが神様から与えられた賜物に気づき、それを生かし、豊かな人生を歩むことができるよう、キリスト教精神に基づいた人格教育を行ってきました。

生徒それぞれの賜物を大切に育てるため、教師はいつも生徒一人ひとりにきちんと向き合い、個性を尊重しながら、きめ細やかに対応しています。

中学校・高等学校で過ごす思春期は心も体もおおしく変化する時です。この多感な思春期を異性の目を気にすることなく伸び伸びと過ごすことで無限の可能性を引き出していく。プール学院の女子教育の伝統は、卒業後それぞれがおかれた場所でかけがえのない役割を果たす多くの女性を送り出してきました。

その伝統と同時に私は、学ぶすべての生徒に「居場所」と「出番」が用意されている学校でありたいと願ってきました。「安心できる居場所があって、自分の出番もある」と実感できた時、心にやりがい生まれ、勉強にもクラブにも前向きに取り組めるものです。

実に多様な生徒が集まる中で、その生徒一人ひとりが「プール学院には私の居場所と出番がある」と思える学校、それぞれがプール学院の教育の特色でありたいと思います。

プール学院が目指す人物像

～ caritas et ministerium ～

プール学院のスクールモットーは「愛と奉仕」です。冒頭の言葉は、この「愛と奉仕」をラテン語で表記したのですが、ここにプール学院が育てたい人間像が体現されています。

caritas（カリタス）はギリシア語のアガペーのラテン語訳で、英語のチャリティー（charity、慈善）の語源となっていますが、その意味はもっと広くて深いものです。コリントの信徒への手紙一13章の有名な御言葉である「信仰と希望と愛」（fides spes caritas）では、caritasが「神から人への愛」「人から神への愛」そして「人間同士の愛」をすべて表していることから、それは明らかです。

ministerium（ミニステリウム）は、「（下僕・従者として）仕えること、奉仕」ですが、新約聖書では「務め、任務」の意味で



も用られています。マルコによる福音書10章に「あなたの方の中で偉くなりたい者は、皆に仕える者となりなさい」という有名な言葉がありますが、この「仕える者」こそ minister (ministeriumする人) であるのです。

「将来、人から、社会から『あてにされる人』になってほしい」苦しんでいる人から「あてにされる」には、その苦しみを少しでも軽くすることができる知力がなければなりません。が、知力があっても「あてにされない」人がいます。人を愛し人に仕える精神を持った人でなければ「あてにして」もらえないのです。

「人の痛みを思いやれる美しい人間性と、その痛みを解決することができる逞しい知力をあわせもった人間」を育てたい。

これこそが「愛と奉仕」(caritas et ministerium)のスクールモットーのもと、145年の長きにわたって教育を積み重ねてきたプール学院のめざす「育てたい人間像」に他なりません。

毎日の礼拝や数々のボランティア活動、元気な挨拶や美しい歌声、知識だけでなく、考える力、伝える力、そして実行する力をつけていくために組み立てられた授業、多彩な国際交流と海外での語学研修、地域に根差し世界を考えるグローバルスタディなどの豊かな学びのプログラムを通して、「愛と奉仕」を実現する女性へと成長してほしいと祈っています。

おわりに

1993年に39校あった大阪府内の女子校は今や19校になり、この30年の間に20校が「共学化」に踏み切ったことになります。(因みに31校あった男子校は5校だけとなっています)

そのような中で、「もはや女子校は時代遅れではないのか」という声を耳にします。しかし、ジェンダーフリーの時代だからこそ、共学校・男子校・女子校という選択肢が大切なのではないのでしょうか。

女子校は、少子化の中で「市場」の半分のアリーナで生徒

確保を図らなければならない宿命を背負っています。確かに女子校を取り巻く状況には厳しいものがあります。生徒確保という数の論理からすれば、「共学化」は極めて現実的かつ魅力的な対処策であることに違いはないでしょう。

しかし、個人的にも親交のある元京都大学教授で現在は京都にある光華女子大学学長をされている高見 茂先生はある新聞に次の文を寄せられています。

「数の論理で既にレッドオーシャン化している共学教育市場にリスクを覚悟して参入するのも一つの戦略であるが、女子教育機関としての価値を更に純化し、数の論理ではない質の論理で女子教育市場を新たなブルーオーシャンとして再生させるのも、もう一つの戦略としてあるのではないか」

プール学院にとっても、創立200年に向かう次の50年を考える上で、「共学化」は議論するに値する大きな課題であるかもしれませぬ。

ただ、その前に果たさなければならない課題があります。「女子校としてのプール学院の復権」です。そのことを片時も忘れることなく、創立150周年にむけて神様から託された教育の業に励んでいきたいと思ひます。



主な行事

4月

入学式
始業の日
イースター礼拝
避難訓練
校外学習
授業参観

5月

教会礼拝
中学校オープンスクール
中間考査
創立記念礼拝
両親感謝礼拝

6月

創立記念日
中学校説明会
体育祭

高等学校説明会
期末考査

7月

人権ホームルーム
中学キャリア学習
S・一貫特別補講
終業の日
面談日
イギリス1か月語学研修

8月

同窓生対象入試説明会
S・一貫プールサマーチャレンジ
始業の日
実力考査

9月

中学校説明会

高等学校説明会
文化祭
中学オープンスクール
芸術鑑賞会
(シルクドソレイユ)

10月

中間考査
中3 British Hills英語合宿
中学入試プレテスト1
校外学習
崇徳女子高5日間訪問

11月

高校オープンスクール
中学合唱コンクール
中学入試説明会
宗教講話
中学入試プレテスト2

クリスマスツリー点灯式
収穫感謝礼拝
大阪府下英語暗誦大会
高校入試説明会
中2思春期教室(バルナバ病院)
期末考査

12月

S・一貫特別補講
人権ホームルーム
オーストラリア語学研修
クリスマス礼拝
キャンドルライトサービス
終業の日
面談日

1月

始業の日
実力考査

中学入試
高校合唱コンクール

2月

高校入試
高校卒業礼拝
高校卒業式
崇徳女子高5日間来校
学年末考査

3月

中2・スキー合宿
S・一貫特別補講
中学卒業礼拝
中学卒業式
終業の日
中学オープンスクール

生徒自治会だより ～再開! 学校行事～

2019年12月頃からコロナ禍が始まりました。いつまで続くのか、不安でいっぱいだった人は少なくないはずです。マスク着用が一種の「文化」として浸透しているように感じる日々でしたが、少しずつ規制も緩くなり、ようやく従来の姿に戻ってきました。そして、4年ぶりに本来の形で自治会行事を行うことができました。



体育祭では、中高合同で行いました。本気で競技に参加し、みんなで協力し合いながら楽しむ光景は、みんなの青春の1ページに刻まれたと思います。最後には全員でプリキュアのダンスを踊りました。先生方も参加してくださり大変盛り上がりました。

文化祭では、グラウンドで模擬店を出店し、焼きそばやお団子、餃子などを販売しました。また、正門や廊下に生徒が作成したモニュメントを掲げ、教室展示では、お化け屋敷やクイズなど、長蛇の列ができるほど賑わっていました。ホールでの舞台発表では、フォークソング部、コーラス部、弦楽部、ダンス部、吹奏楽部の演奏が行われました。

自治会行事を実施するにあたって、たくさん話し合い、閉門時間ギリギリまで残って準備に励んだことは、クラスメイトや自治会執行部の仲間との絆がより深まったと思います。古き良き伝統を重んじながらも時代に合わせた変化を取り入れ、新しい伝統を築く覚悟で取り組みました。また、これからの自治会活動に繋げていけたらいいと思います。みんなの青春の1ページに刻まれますように…

(高校生徒自治会会長 青島 千佳)

部活動だより ～ソフトボール部～

私たちソフトボール部は、チームとして3つのことを大切にしています。1つ目は「応援されるチームになること」です。学校の先生方や保護者のみなさんに応援していただけるようなチームを目指して全力で練習や試合に取り組んでいます。2つ目は「役に立つこと」です。部員全員が周囲を見て考え、誰かの役に立つような行動を心がけています。3つ目は「感謝すること」です。いつも支えてくださる先生方や保護者のみなさんに感謝するのはもちろん、いつも使っている道具やグラウンドにも感謝してプレーしています。さらに、チームメイトとの情報共有や目標の一致を意識し、目標の達成に向けて日々過ごしています。

2022年11月の私学新人大会では創部以来初の準優勝。2023年6月のインターハイ予選では第3位になるなど、数々の記録を打ち立てました。私個人としては国体の大阪選抜チームのスタッフとして選出され、2023年10月に行われた「燃ゆる鹿児島国体」に帯同しました。鹿児島国体では、試合のスコアの記録、選手・監督のサポートをさせていただき、大阪選抜チームの役に立つことができました。普段ではできない裏方の仕事を務めることで視野を広げ、貴重な経験を得ました。これらの経験を糧にこれからの自分を作り上げていこうと考えています。

私たち3年生が引退したあとも後輩たちは、近畿私学大会や大阪の大会でも活躍しています。後輩たちには、もっと上を目指せるようにがんばってほしいと願っています。

(ソフトボール部キャプテン 坪井 湖春)

主な戦績

2022年 大阪私学新人大会 準優勝
2023年 つくし杯女子ソフトボール大会 1部準優勝
インターハイ予選 第3位
近畿私学大会 2年連続2回目の出場 2部第3位

「アカデミア」の取り組みについて

総合的な探究である「アカデミア」の科目のねらいは次の3つです。

- 1.自分で「問い」を立て、根拠を示して「自分の主張」を伝えられる力を身につける。
- 2.情報を整理し、まとめる力を養い、根拠を明確にして自分の主張を述べる力を身につける。
- 3.正解のないものに挑んでいく力を身につける。

高校1年次で「アカデミアI」を履修します。Iでは、図書・新聞などからの情報収集、関心をもっている領域の自覚、メインテーマ（問い）の設定、アウトラインの作成等を行います。高校2年次で「アカデミアII」を履修します。IIでは、レポート（論文）の作成、スライドによる発表を行います。

答えが決まっている問題に最短のルートでたどりつく練習をするのではなく、自ら問い（課題）を見出し、解決方法を探すことを目指しています。これは難しいことですが、本当に楽しいことでもあります。この不確実な世界で、自分で課題を見つけ、考えていける人材を育てます。

1. 論文に必要なもの

1. 「問い」（なぜ〇〇なのか?）
2. 「自分なりの主張」（私は〇〇と考える）
3. 「その主張に至る論証」（なぜなら〇〇だから）

この3つが必要

授業で
使用している
スライドの一部

データサイエンスの取り組みについて

データサイエンスの授業では高等学校の数学Iまでに学習する内容を習得し、それらを身近な実際の問題解決に生かすことができる「統計的問題解決力」を身につけることを目標としています。授業中で統計検定4級や3級の練習問題を演習し、統計検定の4級や3級の合格を目指しています。

散布図や資料を見てどのようなことが読み取れるのかを分析し、先々でどのようなことが予想できるのかを論ずることができるようになってほしいと考えています。

また、Excelのデータ分析機能を使った解析方法や関数を用いての統計処理の学習も行っています。高校1年生で学ぶ「情報I」の復習を兼ねているので、生徒にとっては比較的スムーズに取り組んでいます。受講している生徒も理論よりはコンピュータによる演習の方が楽しいようで、抵抗なくアプリケーションプログラムを扱っていく生徒たちの姿は頼もしいものがあります。

Glocal Study Iの取り組みについて

本校では、文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール（SGH）ネットワーク」の認定のもと、地域の市町村・企業・NPO法人と連携してグローバルな視点を持ってコミュニティを支えるリーダーを育成する教育活動を展開しています。

高校1年生の1学期初回の授業は、「世界がもし100人の村だったら」という本を題材として、各国の役割カードが示す性別や年齢、言語などを使ってコミュニケーションを図り、多様性を実感することから始まりました。そして、生野区に住む外国籍住民の実態を、調べ学習やいくのパークのフィールドワークを通して学びました。また、今年度よりスコット・キャメロン先生がGlocal Studyを担当してくださっているので、キャメロン先生の出生地であるニュージーランドの紹介や社会問題をどのように解決しているかについて、お話しいただきました。このような活動を通して、1学期は「共生」について知る機会となりました。



そして、2学期は「共生」の実態を深く知るため日韓関係と行政の取り組みに焦点を当てました。日韓関係のキーワードを調べ、オクアンヒョン 聖公会生野センターの呉光現さん、チュヒテ Chol 哲学者の朱喜哲さんにご講演いただきました。そして、コリアタウン周辺でフィールドワークを行うなど、体験したことを各自1分間でまとめて発表しました。この発表を通して、自分でプレゼン資料を作成し相手に伝える難しさを知るとともに、同じ体験をしても他の生徒たちの受け取り方はさまざまであることを発見し、他者理解を深める経験になったとの感想が多くありました。そして、より多くの人に伝わりやすく話すための取り組みとして、「やさしいにほんご」について生野区役所さまにご講演いただきました。

今後は、これらの経験によって知ることができた地域の課題を見つけ、その課題解決に向けて生徒たちがどのように行動していくかをグループで考え、案を出し合い、課題解決に向けたアクションを起こしていくことが目標です。



中学総合学習の取り組み

「楽なことを覚えたらあきまへん。あんたが七つでしっかり覚えられたら、あとは一生もんや。その歳で楽なほうに走ることを覚えたら、あとになって苦労するのはあんたですえ」

(山本一力『梅咲きぬ』より)

本校の中学校総合学習は3年間で「自ら課題を見つけ解決する力」を身につけ、卒業論文を制作している。自分で考えることが求められるため、教員から課題やテーマを与えられたり指図されたりすることはない。ここではどのように取り組むかを述べてみたい。

1年生は図書館の使い方、新聞やインターネットの検索について学習し、発表する機会をもつ。情報のスキルを手に入れ、関心領域を探す下地を作っていく。

2年生は研究のテーマを見つける学年となる。「何に興味があるのか」と改めて問われると、すぐには答えられない生徒が大半である。好きなものはあってもそこに何の不思議も疑問も感じていない

のだ。だが発想を広げ、担当者と面談を重ねるうちに、自分の中にある疑問の種に気づく。それを掘り起こす作業が論文の第一歩である。疑問=テーマを見つけたら、情報カードを作って知識を蓄積していく。論文完成までに例年150枚程度を作成している。

3年生では積み重ねた知識を基に、大きな疑問(メインテーマ)に対する結論(仮説)を立てる。この仮説を検証することで、真の結論に到達するのである。サブテーマを並べ替えて論文のアウトライン(目次のもとになる章立て)を作る。それに沿って本論4000字以上の規定に従い、論文の下書きを始める。下書きが出来たら担当者が添削、生徒は加筆修正し、ブラッシュアップをしていく。このようにして2学期末に清書が完成する。

冒頭の一節は、三味線の組み立てに苦戦する主人公に向かって老齢の師匠がかけた言葉である。中学生にとっては情報カードも論文執筆も未経験のことばかりで、初めはみんな戸惑う。しかし、苦労しながら得た知識・経験は血肉となり、高等学校のアカデミアを初めとする教科学習に成果として表れる。この研究が後の大学選択につながるケースもあると聞く。「一生もん」の英知を手に入れてくれることを願っている。

LRC(図書館)に 新コーナーオープン!



LRCに、木目調の大柱を中心とし、ゆったりとくつろげるスペースができました。「好奇心の杜」という名前です。生徒たちが自ら好奇心を育める場所になるように、と名づけました。「杜」には、「鎮守の杜」のように人の手が入った森という意味があると耳にしたことがあり、この漢字を使うことにしました。

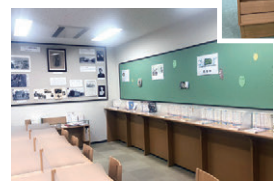
「好奇心の杜」には、[中学生以上、誰でも]が対象のシリーズ図書、従来からある絵本・雑誌、それにコミックを置いています。LRCでは通常、すべての本を分類(ジャンル)別に配置しています。同じテーマの本が近くに集まるため、探究学習に適しているからです。岩波ジュニア新書に代表されるような大きなシリーズも同様です。一方「好奇心の杜」では、分類別にせずシリーズをまとめて置くことにしました。テーマを絞らずに読んでほしいとの思いからです。気に入ったシリーズを連続して読めば、自然と様々な分野に触れることになり、知識・教養の幅が広がるのではないかと考えました。「好奇心の杜」のために読みやすいシリーズを選びました。中学生はもちろん、高校生にもぜひ活用してほしいです。またコミックも大幅に所蔵タイトルを増やしました。選ぶときに考慮したのは、「面白く読めるか?」「何か得るものがあるか?」の2点です。楽しく読んでいるうちに新たな興味と出会ったり、自分では探さないであろう知識をいつの間にか得たりできればいいな、と思っています。コミックを読んで興味や疑問を持った時に、深い調べができるように図書へ導入するしかけも作りました。1冊ごとに、そこにでてくる事項の図書分類を最後の

ページに貼っています。好奇心から探究へつながるよう願っています。

今回の改修は、安福校長先生の「今のLRCとは別に中学生向けの図書館を作りたい。検討してほしい」との一言から始まりました。最初に検討したのは空き教室を融通してもらう案でしたが、2か所に分かれて常時開館することは現状のスタッフ数では難しいと思いました。生徒が利用したい時にいつでも使える場所、鍵のかかっていない場所にするには、1か所にまとめるしかありません。そこで、当初の目論見よりはいくぶん小ぢんまりしてしまうのですが、隣の自習室との一体化を行いコーナーにすることを提案しました。壁も取り払うことにしました。自習室の机は一部を本棚代わりに利用し、自習席も少し残すことにしました。このようにして、改修部分是最小限ながらも広さを感じられるコーナーを作ることができました。

「好奇心の杜」のシンボル、大柱の下部にはベンチもついています。大きな掲示板や素素な展示台も設置され、ゆっくりくつろぎながら新しい興味を探せるエリアになりました。生徒にも人気の場所となっているようで、放課後は大勢の生徒たちが静かに利用しています。

改修ならびに新コーナー用の図書購入費用は保護者の皆様からの寄付金で賄わせていただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。ご来校の際にはぜひLRCへ足を運んで、「好奇心の杜」へ浸ってみてください。



留学報告

プール学院でのグローバルな学び

教務部 国際教育係長 伊藤 歩

コロナがあげ、シンガポールへの修学旅行をはじめ、再開された海外プログラムには、多くの生徒が積極的に参加している。体験から学ぶことの重要性が謳われる中、本校生徒にとって、キリスト教を通して

カナダ留学を経験して

高校Ⅲ年A組 牧原 歩実

カナダという国は人種のるつぼでした。そのため、色々な国の人達と交流する多くの機会を得ることができました。3つのホームステイ先は、それぞれメキシコとイタリア、イラン、中国とイギリスの家庭で多種多様な生活を味わうことができ、文化、価値観も三家庭三様で多くの学びを得ることができました。留学後半で過ごした現地の高校生生活でのステイ先では同世代のスペイン人とドイツ人のホームメイトとの出会いがあり、友情の壁に国境はないと感じるとりわけ密な、充実した時間を過ごすことができました。

元々自己主張が苦手であった私ですが、カナダでは自分の思いを言葉に発さないことにはコミュニケーションを図ることができないので積極的に自分の考えや気持ちを伝えることができるようになったと思います。

私がカナダ留学を経験して得た学びは、英語はもちろんのこと、その他に「人には様々な価値観があり、バックボーンが違うと、同じ物事でもそれぞれに感じ方や見方が違う」といった学びがありました。

今まで当たり前だと思っていたことが、相手にとって全く常識はズレだったり、逆に相手が自分や日本に対して、とんでもない誤解をしていることもあり。色々な国の様々な考えの人達と接する中で、その各々の価値観を受け入れつつも自分の意見や主張を伝えていくことの大切さを学ぶ一年となりました。



フィリピンセブ島研修

Ⅱ年C組 稲生 綾音

私はこのフィリピン留学が初めての海外留学でしたが、これが初めての留学で良かったと思っています。日本人が海外留学で感じるギャップをたった2週間で存分に感じる事ができたからです。

何より良い経験だったのはスラム街の見学です。その情景は想像を遥かに超えて酷いものでしたが、中身は私達の知らない暖かい1つの街でした。私がスラムに着いた瞬間思ったのは、とにかく街全体が臭いという事です。街はゴミや野犬、野良猫などで溢れかえっていました。そして私達への視線は、形容し難いほどの冷たいものであり、正直その時点で帰りたい気持ちでいっぱいになりました。

しかし、見学が進むにつれてスラム街の人々は街を大事にしている事が分かり、私達への冷たい視線も街を守る為なのだと思いました。また、スラム街には医者になる人もいと聞きました。スラム街で育った医者は数年間都市部で働いた後スラム街に戻り、地域に尽くすそうです。私はとても驚き、改めてフィリピンに留学できて良かったと思いました。

他にも、毎日朝から晩まで友達や先生と過ごし、数々のアクシデントも楽しめたとても充実した留学でした。

今後何か辛い事があった時、この留学を思い出して励みたいと思います。



フィリピンにいた時、よく食べていた“Jollibee”というファストフード店です。

PTA活動のご報告

いつもお支えくださりありがとうございます。今年度の活動をご報告いたします。

9月の文化祭では多くの方々をお招きして、文化委員会と諸先輩方との協力のもと、バザーとチャリティーコンサートを開くことができました。10月にはソフトボール・バレーボール両チームとも、私学保護連スポーツ大会への5年ぶりの出場が叶いました。11月はホテルニューオータニにて研修委員会主催アフタヌーンティーマナー講習会があり、楽しい午後のひとときを過ごしました。学校行事、PTA活動は広報委員会が海棠に掲載しています。是非ご覧ください。

わたしたちもコロナ前のように活発な活動に戻りつつ、学校の内外縦横の交流をさせていただけることに感謝申し上げます。



実践的にグローバルな視野を育てる重要な機会となっている。海外大学との直接連携や海外大推薦制度などもあるため、ますます世界で活躍する生徒へと育てて欲しい。

崇徳短期留学

高校Ⅱ年A組 鈴木 萌生

私は9月7日から10月4日まで韓国の崇徳女子高等学校に留学しました。小学3年から韓国ドラマを見ていて興味をもち、現在はK-POPにも興味があります。留学すると決まった時はとても嬉しかったです。私は2つの家庭にホームステイしました。ホストファミリーの方々の中に日本語がわかる方がいらっしやっただので少し安心できました。

学校では、授業と友達のお喋りはもちろん韓国語。初めの頃は全く聞き取れませんでした。クラスメイトやホストファミリーに簡単な韓国語を教わり、少しずつ話せるようになりました。

留学中はホストファミリーと過ごす機会がたくさんありました。私が行った時はまだ夏休みでした。日本は長くても8月31日までですが、韓国は9月中旬まであります。また、秋夕(チェソク)と言われる、旧正月に並ぶほど代表的な韓国の名節がありました。これは1週間ほどの休日で親戚と過ごすのが伝統です。私も親戚の方の家にお邪魔し、一緒に過ごしました。

ホストファミリーやクラスメイト、そして先生方も韓国語がほとんどわからない私にとっても優しく接してくださいました。正直韓国語よりも英語の方がわかるので、英語で先生方に話していただきました。

初めて1人で日本を離れ、外国で生活をしました。日本にいる家族が恋しくなることはありましたが、ホストファミリーとも、とても仲良くなれたので良かったです。好きな国に1人でホームステイ! とても素晴らしい経験になりました!!



英国1か月語学研修

高校Ⅲ年B組 濱田 彩花

高校2年の時に英国1か月語学研修に行きました。向こうでは午前中にスピーキングの練習を主にし、午後からは現地の学生達と交流をしました。英語で英語を学ぶということは初めてのことで心配もありましたが、日本の学校とは違った授業の雰囲気の中周りのブール生と支え合いながら、楽しく授業を受けることができました。

現地の学生との交流は一緒にスポーツをしたり、ショッピングに行ったりと様々なことができます。海外の友達ができ、気軽に英語をしゃべることができました。

英国ホームステイを通じて

高校Ⅲ年B組 森本 侑那

私は英国で、アフリカ系のホストファミリーの家庭にホームステイをさせていただきました。日本語は通じないし生活様式や食文化も異なる、日本人は自分だけという環境で過ごせるのかと始めは不安でした。ですが、始めから終わりまで優しくしてもらい、沢山コミュニケーションを取って会話をしてくれたことが語学研修での一番の思い出です。

特にホームステイ初日に英語が伝わるか不安だと伝えた時に、「今会話ができているのは英語がしっかり伝わっているからだよ」と笑顔で言ってくれたことがとても嬉しく、客室乗務員を目指す私にとってこれからも英語を学び続けたいと思える瞬間でした。

中・高後援会のご報告 後援会会長 奥井 浩子

2007年に発足した後援会は、早いもので16年になります。いつもご理解とご協力に感謝致します。新型コロナウイルスが5類になったことで社会全体がコロナ前に戻りつつあります。後援会も9月16日に開催されました文化祭に参加しバザーを行いました。多くの方にご来場いただき、売上金約20万円は全額オクスラド基金に寄付いたしました。

また2024年1月8日(成人の日)には、成人年齢が見直されて初めての礼拝開催となりました。名称を「はたちの感謝礼拝」とし、学校・一般社団法人POOLEの皆様と一緒に清心館にて行います。寒い中でも若い卒業生の方々のパワーを頂き、こちらも元気になれるイベントです。

今後とも後援会の活動にご協力をお願いいたします。





ご報告

一般社団法人POOLE
理事長 大塚 陽子 (高76回・今江)



一般社団法人POOLE(プール学院同窓会)は、本部大阪をはじめ、国内では関東支部、九州支部、中部支部、北海道支部(休会中)、海外では北米支部が活動しています。とくにカナダのバンクーバーでは学院からの留学生を受け入れてくださり、現地に不慣れな学生に寄り添うサポート役を担ってくださっています。

関東支部では初めての試みとして、比較的若い関東在住者の茶話会を催されました。新卒の方も和やかな雰囲気にも包まれた中で、先輩たちの優しい励ましの言葉に接し笑顔がこぼれていました。今後とも、この会を続けてくださるよう願ってやみません。

そのほか卒業生には演劇、音楽、執筆、教育、料理といった様々なジャンルで活躍中の方がおられます。同窓会では、会をあげて応援していきたい所存でございます。皆さまの参加ご協力をよろしくお願いいたします。

2023年度 一般社団法人POOLE クラス代表者会報告 常任学年代表者委員会 委員長 桑平 麻由子(高86回・桑村)

11月18日(土)13時より、2023年度一般社団法人POOLE(プール学院同窓会)クラス代表者会を開催し、同窓会理事監事含め、計61名の社員、クラス代表者の方にご参集いただきました。前半において「2023年度の同窓会活動」について大塚陽子理事長よりお話しいただいた後、安福校長には、ご就任後3年間で在校生が140名以上増え、女子校として現在希少な存在となったプール学院が徐々に活気を取り戻しつつあることをご報告いただきました。



続いて、広報委員長、企画委員長、社会ボランティアの会代表、常任学年代表委員長より、各委員会の活動報告を行いました。後半には、現役の高校2年生森田陽菜さんもりた ひなをゲストにお迎えし、国費でのニュージーランド留学(トビタテ!留学JAPAN)の貴重な体験談をお話しいただきました。



同窓会館エレベーター設置完成披露式

2023年9月4日(月)同窓会館に待望のエレベーターが設置されました。予てより多くの皆さまより設置の要望をいただいておりますエレベーターの完成披露に伴い、成岡チャプレン司式のもと、祝福の礼拝が執り行われました。募金にご協力いただきました方々に感謝いたします。今後も続けて募金は受付しておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



楽しく同窓会

コロナの規制が緩和され、同窓会館にも賑わいが戻ってきました。懐かしい恩師や友達との再会に学生時代が蘇ったような笑い声が館内に響き渡りました。

校舎見学で学生時代を懐かしんだり、赤ちゃん連れの同窓会など、様々なご要望にお応えできるよう同窓会事務室では同窓会開催のお手伝いもしています。お気軽にご相談ください。



第8回賀寿祝福礼拝・お茶会開催

2023年9月9日、在校生による奏樂のもと、約100名を越す該当者の方々に於いて「賀寿祝福礼拝」が執り行われました。「みんなで歌おう」と題し、参加者全員が3曲もの曲を大合唱しました。その後、同窓会館にて、学院の「茶道部」による「お茶会」が開かれ、当日は指導をされている田中三香子さん(高92回)の手作りのお菓子「葛焼」と共に美味しいお抹茶を頂戴することができました。

お菓子とお抹茶のお運びをしなからも、生徒さん達は茶道のおもてなしの心を忘れず、にこやかに会を盛り上げてくれていました。

これからも「プール学院茶道部」の、さらに部員一人一人の成長を願ひ、同窓会としても精一杯応援して行きたいと思っています。



同窓会 クリスマス礼拝

2023年12月16日(土)午後2時より、第4回目となる一般社団法人POOLE(プール学院同窓会)クリスマス礼拝が川口基督教会に於いて行われました。ステパノ柳時京司祭の司式のもと、上谷衣代さん(高86回)の奏樂により、90名近くの同窓生が共に聖歌を歌い、お祈りをお捧げしました。

大橋ジュンさんがシャミナードの「鳥たちのクリスマス」を独唱し、イエス様の御降誕のお祝いに花を添えてくださいました。

素晴らしいひと時を感謝します。



行事予告 同窓生の集い 2024年5月18日(土)13時～

学校法人トリストラム学園 認定こども園 プール幼稚園

「今の時を豊かに生きる」 ～出会いと繋がり～

理事 大坪 栄子(高74回 清水)

「今の時を豊かに生きる」はプール幼稚園の教育目標です。一瞬一瞬の今の時を自分の好きな遊びを見つけてお友達とひたすら遊びこむ子ども達。たっぷりと遊んだ後の満足感は豊かな心の世界が待っています。

「森の時間」「庭の時間」「食の時間」「出会いの時」「祈りの時」等、5つの時間に代表される園生活の時間は、どの時間も子ども達にとって楽しい時間になっています。

1966年(昭和41年)、開園当初の園庭は石ころがあちこちに落ちていて週末になると皆で石ころ拾いをしたこと、雨期になると雨蛙がたくさん園庭に入って来たこと、春には東側のフェンス沿いに蛇を見かけたこと等、現在の芝生が広がる緑豊かな園庭からは想像できない光景でした。

虫探しや土のお団子づくり、畑では色々な野菜を育てて収穫、収穫した後は楽しいお料理の時間。広い園庭を駆けまわり、感性を全開にしなが土・水・緑に親しみ色々な虫たちに出会う子ども達の生活は、いつの時代も自然と共にありました。

社会で痛ましい事件や事故が起こる度に子ども達の生活は制限されていきましたが、プール幼稚園では色々な人達や文化との出会いを大切に過ごしてきました。

お誕生日会では毎月、クラリネット・フルート・ピアノ・バイオリン等、間近で生の演奏に触れた子ども達は驚きと共に、演奏者の方達から醸し出される雰囲気や包まれて、音楽の楽しさだけでなく、互いに心を通い合わせる豊かな時間となりました。

クリスマスコンサートではプール学院中高の弦楽部やハンドベル



部の皆さんが来てくれました。創立40周年・50周年の「感謝と音楽の集い」の時には吹奏楽部の演奏を聴くことができました。日頃、接することが出来ない生のダイナミックな演奏に身も心も踊った子ども達でした。

卒園生がよく訪れてくれるプール幼稚園。卒園生が一番楽しみにしている行事は11月の収穫感謝祭にちなんで行われていたバザー。保護者の方達による手作り品や献品、ゲームコーナー、美味しい食べ物のお店もたくさん出店され、集まった方達は晴れた秋空の下、園庭で、保育室で、いっぱい食べておしゃべりをして、再会を約束して帰途につきました。

保護者の方達の園に対する暖かいご協力は今も昔も変わりなく、大人になった卒園生達はとても頼りになる存在です。

プール幼稚園では毎日、讃美歌を歌いお祈りをお捧げする礼拝の時をもっています。お祈りの後の絵本の時間は子ども達が絵本の世界を旅する楽しい時間。クリスマス礼拝ではお母さん達の聖歌隊による讃美歌に導かれて子ども達はキャンドルをもって入場。その後、年長組の子ども達はページェントを通して神様からの愛のメッセージを集まったお家の方達に伝えてくれます。

4年前から成岡宏晃司祭と古澤英利司祭がチャプレンとしてプール幼稚園に来て下さっています。お二人の司祭はまるでご自分のお子さん達に向き合うように子ども達に接して下さいます。

～人と出会い 自然と出会い 神様と出会う～

色々な出会いは子ども達の人生を豊かにしてくれます。

今、インクルーシブという言葉がよく聞かれますが、プール幼稚園では開園間もない頃から、支援の必要な子ども達も共に過ごしてきました。色々な個性をもった子ども達と一緒に園生活を過ごす中で、私達は子ども達からたくさんのことを学ばせて貰いました。

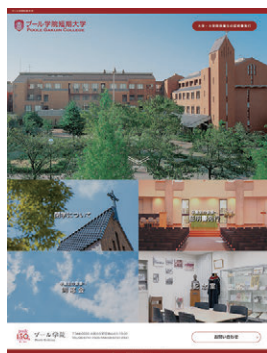
20年余り前からプール学院の保育福祉科を選択した高校3年生の生徒さん達が実習で毎年9月に園に来られますが、一人ひとりを大切にするプール幼稚園の保育のあり方に、深くうなずいてくれます。

子ども達には一人ひとりかけがえのない物語があります。神様に愛され、周りの人達に見守られながら幼稚園でお友達と一緒に心ゆくまで遊び、色々なことを経験しながら、それぞれに相応しい幸せな物語を紡いでいって欲しいと願っています。



プール学院短期大学について

卒業生の方に向けた
ホームページを公開しています。



1. 短期大学に関する窓口

学校法人プール学院 事務局 短期大学係

大阪市生野区勝山北 1-19-31
TEL : 06-6741-7005 FAX : 06-6731-2431
E-mail : tandai@poole.ed.jp
受付時間 : 月～金 10:00～16:00
(祝日および学校休業日は除きます。ご来校の際は、事前にご確認ください。)

2. 証明書発行

詳細につきましては、ホームページをご覧ください。

3. 短期大学記念室

短期大学に関する資料、出版物、記念品等を展示しています。



場所：プール学院中学校・高等学校 清心館礼拝堂のとなり
対象：卒業生、旧教職員、学院関係者
開室日時：原則として月～金 10:00～16:00
(日曜・祝日及び学校休業日を除きます。土曜日については応相談。また、平日でも学校行事等によりご利用いただけない場合があります。)
*事前申込制です。詳細につきましては、ホームページをご確認ください。

4. ご相談やお問い合わせ等

短期大学に関するご相談、ご質問等がございましたら、プール学院 事務局 短期大学係までお問い合わせください。

プール学院大学・大学院の 証明書について

プール学院大学は2018年4月、設置者変更により学校法人桃山学院が運営する桃山学院教育大学になりましたので、卒業生・修了生等の証明書の発行は桃山学院教育大学で行われます。

詳細につきましては、桃山学院教育大学のホームページをご確認ください。

学院人事

■ 学校法人役員・評議員

- 〈就任〉
-2023年4月1日付-
常務理事 中山 浩子
監 事 森田 義
-2023年5月29日付-
理事・評議員 大塚 陽子
- 〈重任〉
-2023年4月1日付-
監 事 東弘彦
評議員 原 徹
-2023年8月1日付-
理事・評議員 阪 広久
評議員 桜井 和之
- 〈退任〉
-2023年3月31日付-
監 事 米虫 克次
-2023年5月20日付-
理事・評議員 鈴木 光子
- 〈任期満了〉
-2023年3月31日付-
常務理事 桜井 和之

■ 教職員

- 〈再任〉
-2023年4月1日付-
*中学校・高等学校
校 長 安福 朗
- 〈採用〉
-2023年4月1日付-
*中学校・高等学校 教育職員
専任教諭 内平 健
常勤講師 木原 琴音
常勤講師 盛次 祐希
常勤講師 砂野 暢明
常勤講師 呉野 恵美
常勤講師 Scott Cameron
常勤講師 流王 玲菜
常勤講師 南元 菜那
*事務職員
常勤職員 脇元 亜希子
-2023年8月1日付-
常勤講師 富岡 真理子
- 〈登用〉
-2023年4月1日付-
*中学校・高等学校 教育職員
専任教諭 田中 勇貴
専任教諭 奥野 みどり
- 〈退職〉
-2023年3月31日付-
*中学校・高等学校 教育職員
専任教諭 村井 宏行
専任教諭 青山 一朗
専任教諭 富岡 真理子
専任教諭 勝見 昌浩
任期制専任教諭 岩本 佳奈
常勤講師 加茂田 直美
常勤講師 井上 千聖
*事務職員
専任事務職員 脇元 亜希子
-2023年11月11日付-
*中学校・高等学校 教育職員
専任教諭 今井 千晴
-2023年10月19日付-
*事務職員
任期制専任事務職員 東 周子

■ 訃報

- 関 綾子
2023年1月12日 逝去
2004年4月1日～2018年3月31日
プール学院大学 専任教員

ご在職中のお働きを覚え、
つつしんで魂の平安を
お祈り申し上げます。

■ ご寄贈感謝

- 高校2021年度卒業生
1,000,000円
- 高校2022年度卒業生
1,000,000円
- 村井宏行教諭より
梅の木
- 一般社団法人POOLEより
同窓会館エレベーター

以上